



JISEC

認 証 報 告 書

評価対象

申請受付年月日(受付番号)	平成16年1月5日(IT認証4020):当初の申請を取り下げし、 CCRA認証マーク対応のため、再申請があった申請受付日 平成15年7月9日(IT認証3010):当初の申請受付日
認証申請者	コニカミノルタビジネステクノロジーズ(株)
TOEの名称	日本 : 7145全体制御ソフトウェア 25.0000 海外 : 7145 control software 25.0000
PP適合	なし
適合する保証要件	EAL3
TOE開発者	コニカミノルタビジネステクノロジーズ(株)
評価機関の名称	社団法人 電子情報技術産業協会 ITセキュリティセンター

上記のTOEについての評価は、以下のとおりであることを認証したので報告します。

平成16年3月15日

独立行政法人製品評価技術基盤機構
適合性評価センター管理課情報セキュリティ室
技術管理者 田淵 治樹

評価基準等 : 「ITセキュリティ評価機関に対する要求事項」で定める下記の規格に基づいて評価された。

ISO/IEC 15408:1999 Information technology - Security techniques - Evaluation criteria for IT security.

JIS X 5070(2000) セキュリティ技術 - 情報技術セキュリティの評価基準。

Common Criteria for Information Technology Security Evaluation.

JIS TR X 0049(2001) 情報技術セキュリティ評価のための共通方法

Common Methodology for Information Technology Security Evaluation

認証機関が公開する および の翻訳文書

補足文書 (補足-0210, CCIMB Interpretations-0210)

評価結果：合格

「日本：7145全体制御ソフトウェア 25.0000、海外：7145 control software 25.0000」は、独立行政法人製品評価技術基盤機構が定めるIT製品等のセキュリティ認証業務実施規程に従い、定められた規格に基づく評価を受け、所定の保証要件を満たした。

目次

1	全体要約	1
1.1	はじめに	1
1.2	評価製品	1
1.2.1	製品名称	1
1.2.2	製品概要	1
1.2.3	TOEの範囲と動作概要	2
1.2.4	TOEの機能	3
1.3	評価の実施	5
1.4	評価の認証	5
1.5	報告概要	6
1.5.1	PP適合	6
1.5.2	EAL	6
1.5.3	セキュリティ機能強度	6
1.5.4	セキュリティ機能	6
1.5.5	脅威	9
1.5.6	組織のセキュリティ方針	9
1.5.7	構成条件	9
1.5.8	操作環境の前提条件	9
1.5.9	製品添付ドキュメント	10
2	評価機関による評価実施及び結果	12
2.1	評価方法	12
2.2	評価実施概要	12
2.3	製品テスト	12
2.3.1	開発者テスト	12
2.3.2	評価者テスト	14
2.4	評価結果	16
3	認証実施	17
4	結論	17
	注意事項	24
5	用語	25
6	参照	27

1 全体要約

1.1 はじめに

この認証報告書は、「日本：7145全体制御ソフトウェア 25.0000、海外：7145 control software 25.0000」(以下「本TOE」という。)について社団法人 電子情報技術産業協会 ITセキュリティセンター(以下「評価機関」という。)が行ったITセキュリティ評価に対し、その内容の認証結果を申請者であるコニカミノルタビジネステクノロジーズ(株)に報告するものである。

本認証報告書の読者は、本書と共に、対応するSTや本TOEに添付されるマニュアル(詳細は「1.5.9 製品添付ドキュメント」を参照のこと)を併読されたい。前提となる環境条件、対応するセキュリティ対策方針とその実施のためのセキュリティ機能要件、保証要件及びそれらの要約仕様は、STにおいて詳述されている。また、動作条件および機能仕様は本TOEに添付されるドキュメントに詳述されている。

本認証報告書は、本TOEに対して、適合の保証要件に基づく認証結果を示すものであり、個別のIT製品そのものを認証するものではないことに留意されたい。

1.2 評価製品

1.2.1 製品名称

本認証が対象とする製品は以下のとおりである。

名称: 日本：7145全体制御ソフトウェア

海外：7145 control software

バージョン: 25.0000

開発者: コニカミノルタビジネステクノロジーズ(株)

1.2.2 製品概要

本製品(日本：7145全体制御ソフトウェア、海外：7145 control software)は名称が異なるだけで同一物である。以下「7145全体制御ソフトウェア」という)は、コニカミノルタビジネステクノロジーズ(株)製デジタル複合機(Sitios7145シリーズ。以降「7145シリーズ」という。)に搭載され、利用者毎に保存されたドキュメントデータの漏洩や削除に対する危険性を減ずることを目的としたソフトウェア製品である。

7145全体制御ソフトウェアは、コピー/プリンタ/FAXなどを活用した機能(コピー機能、FAX機能、Scan to Email機能、PC-FAX保存機能、i-FAX機能)を有する。7145全体制御ソフトウェアは、7145シリーズに搭載し提供される。

7145シリーズの利用環境として図 1-1 7145シリーズの利用環境に示すオフィスを想定する。

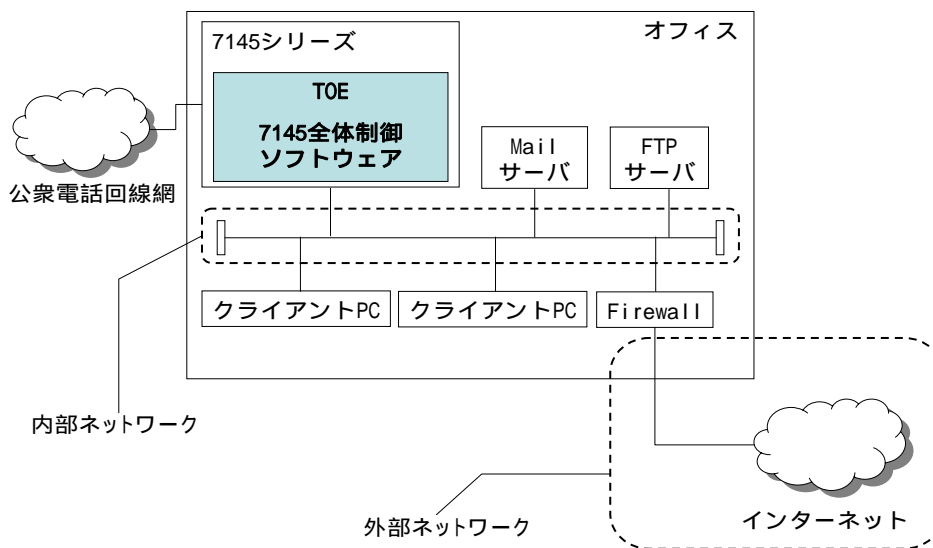


図 1-1 7145シリーズの利用環境

TOEを搭載する7145シリーズは、図 1-1 7145シリーズの利用環境に示すように内部ネットワーク及び公衆電話回線網に接続される。

1.2.3 TOEの範囲と動作概要

TOEは7145シリーズの一部であり、TOEを含む7145シリーズの構成を図 1-2 7145シリーズの構成に示す。

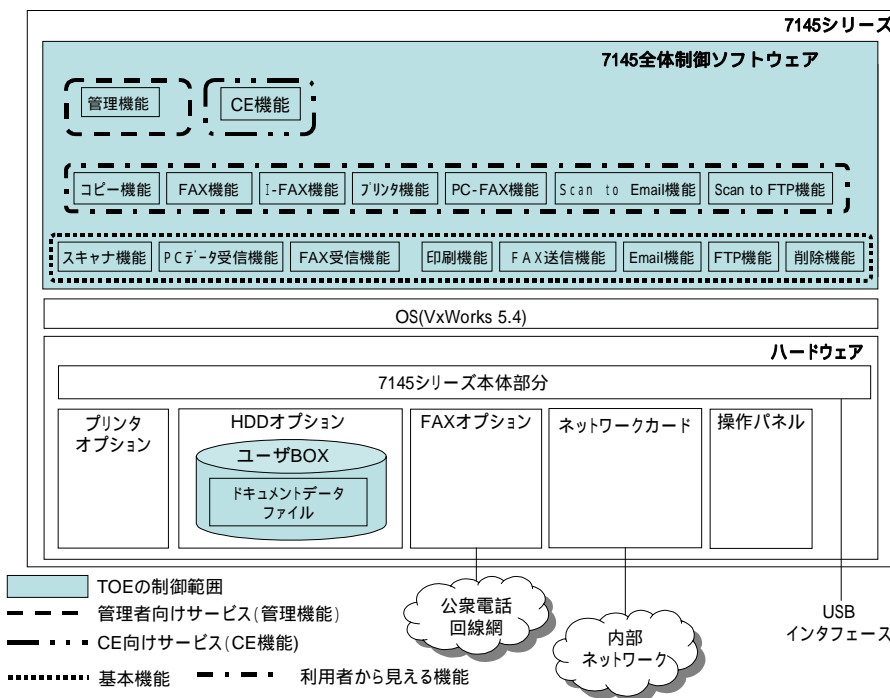


図 1-2 7145シリーズの構成

7145シリーズは、ハードウェア、OS及び7145全体制御ソフトウェアから構成される。TOEは7145全体制御ソフトウェアであり、OS(VxWorks 5.4)上で動作する。

TOEに含まれる各機能とTOEが生成するデータ拡張領域であるユーザBOXを図1-2 7145シリーズの構成のハッチ部分に示す。

1.2.4 TOEの機能

TOEは、ユーザBOX内のドキュメントデータファイルに格納されたドキュメントデータの操作をする「基本機能」、管理者がTOEの設定を行う「管理機能」及び、CE(*1)がTOEの初期設定(管理者の登録やTOEのインストール)を行う「CE機能」から構成される。

(*1)Customer Engineer : 7145シリーズの保守を委託されている企業に在籍し、7145シリーズの保守をする者

1.2.4.1 TOEの基本機能

基本機能は、一般利用者がユーザBOXを介してドキュメントデータの書き込み、読み出し、削除(格納するまでの機能も基本機能に含まれる)の操作をする機能である。ユーザBOXはユーザBOX識別子で識別され、さらに各ユーザBOXの所有者の正当性を確認するためにユーザBOX毎にユーザBOXパスワードが設定される。基本機能の概念を図1-3 基本機能の処理概念に示す。各機能の詳細は以下の通りである。

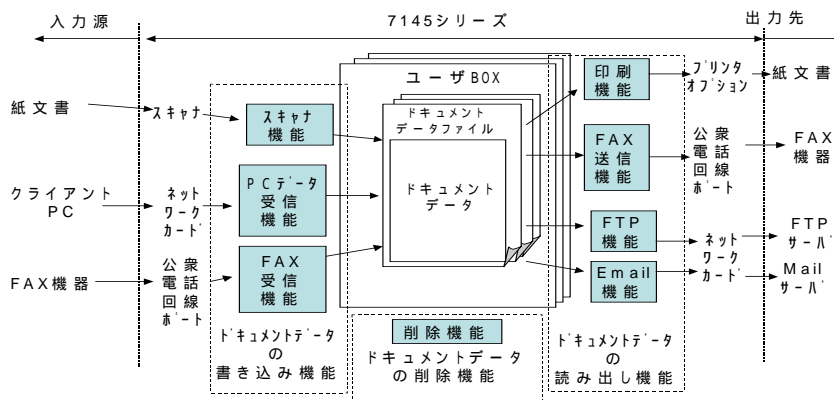


図 1-3 基本機能の処理概念

(1) ドキュメントデータの書き込み機能

本機能はユーザBOXに以下の3つの方法でドキュメントデータを追加書き込み(上書きはできない)する。

スキャナ機能

操作パネルから操作し、紙文書の情報をスキャナから取り込みドキュメントデータに変換して、ユーザBOXに保存する。

PCデータ受信機能

クライアントPCからドキュメントデータを、ユーザBOXに保存する。

FAX受信機能

公衆電話回線網に繋がるFAX機器からドキュメントデータを、ユーザBOXに保存する。

(2) ドキュメントデータの読み出し機能

操作パネルから操作し、ユーザBOXに登録したドキュメントデータを以下の4つの方法で読み出し処理をする。

印刷機能

ユーザBOX内のドキュメントデータを印刷する。

FAX送信機能

ユーザBOX内のドキュメントデータを公衆電話回線網に繋がるFAX機器に送信する。

Email機能

ユーザBOX内のドキュメントデータをメールに添付しMailサーバに送信する。

FTP機能

ユーザBOX内のドキュメントデータをFTPサーバに送信する。

(3) ドキュメントデータの削除機能

ユーザBOX内のドキュメントデータを削除する。

1.2.4.2 TOE の管理機能

管理者は、管理機能を使用して、TOEのネットワーク情報の設定、TOEが有する機能の動作設定を行う。また、管理機能は、ユーザBOXの作成/属性変更/削除、監査情報の印刷、HDDの初期化処理、プリンタ枚数の管理、トラブルシューティング及びトナーの管理など、デジタル複合機の運用に関わる情報を管理する。管理機能は、識別と認証が成功した場合のみ管理者に利用が許可される。管理機能は操作パネルからのみ利用できる。

1.2.4.3 TOE の CE 機能

CEがTOEの初期設定を行うため、以下の機能が用意されている。

・サービス設定モード

操作パネルから操作し、サービス設定モードの機能を利用し管理者のパスワード登録と変更をする。

1.3 評価の実施

認証機関が運営するITセキュリティ評価・認証プログラムに基づき、公表文書「ITセキュリティ認証申請等の手引き（平成15年）」[2]、「ITセキュリティ評価機関に対する要求事項（平成14年4月）」[3]、「ITセキュリティ認証申請者・登録者に対する要求事項（平成14年4月）」[4]に規定された内容に従い、評価機関によってTOEに関わる機能及び保証要件の評価が実施された。

本評価の目的は、以下のとおりである。

- (1) 本TOEのセキュリティ設計が適切であること。
- (2) 本TOEのセキュリティ機能が、セキュリティ設計で記述されたセキュリティ機能要件を満たしていること。
- (3) 本TOEがセキュリティ設計に基づいて開発されていること。
- (4) 上記(1)、(2)、(3)を、CCパート3及びCEMの規定に従って評価すること。

具体的には、評価機関は本TOE、本TOEのセキュリティの基本設計である「Multi functional printer (digital copier) 7145 Series セキュリティターゲット 第13版」（以下「本ST」という。）[1]、本TOE開発に関連する評価用提供物件及び本TOEの開発環境・製造・出荷の現場を調査し、本TOEとその開発環境等がCCパート1（[5][8][11][14]のいずれか）附属書C、CCパート2（[6][9][12][15]のいずれか）の機能要件及びCCパート3（[7][10][13][16]のいずれか）の保証要件を満たしていることを評価することである。この評価手順及び結果は、「7145全体制御ソフトウェア 評価報告書」（以下「本評価報告書」という。）[22]に示されている。なお、評価方法は、CEMパート2（[17][18][19]のいずれか）に準拠する。また、CCおよびCEMの各パートは補足（[20][21]）の内容を含む。

1.4 評価の認証

認証機関は、評価機関である社団法人 電子情報技術産業協会 ITセキュリティセンターが作成した、本評価報告書、所見報告書及び関連する評価証拠資料を検証し、本TOE評価が所定の手続きに沿って行われたことを確認した。認証の過程において発見された問題については、認証レビューを作成した。評価は、平成16年3月の評価機関による本評価報告書の提出をもって完了し、認証機関が指摘した問題点は、すべて解決され、かつ、本TOE評価がCC及びCEMに照らして適切に実施されていることが判明した。認証機関は同報告書に基づき本認証報告書を作成し、認証作業を終了した。

1.5 報告概要

1.5.1 PP適合

適合するPPはない。

1.5.2 EAL

本TOEの評価保証レベルは、EAL3である。

1.5.3 セキュリティ機能強度

本STは、最小機能強度として、“SOF-基本”を主張する。

本TOEは、物理的な面と人的な面で十分なセキュリティを確保した条件下で運用されることを想定している。このため、脅威エージェントは低レベルの攻撃力を持つと想定できる。従って、低レベルの攻撃力に対抗できるレベルである“SOF-基本”で満足される。

1.5.4 セキュリティ機能

TOEは、以下のセキュリティ機能を有する。

(1) 識別認証

機能名称	セキュリティ機能
管理者の登録	CEのみが操作でき、管理者のパスワードを登録することで、管理者をTOEに登録する。 パスワードが仕様に従っている場合登録し、仕様に従っていない場合登録を拒否する。
管理者の識別と認証	操作者がTOEを利用する前に、TOEに登録した管理者であることを識別し、操作者が管理者本人であることを認証する。 管理者の識別と認証の前に管理機能の一切の操作を許可しない。 操作者が管理者認証インタフェースにアクセスすることで、管理者であることが識別され、入力するパスワードを用いて管理者本人であることを認証する。 認証不成功時には、5秒間アクセスを禁止する。
CEの識別と認証	操作者がTOEを利用する前に、TOEに登録しているCEであることを識別し、操作者がCE本人であることを認証する。 CEの識別と認証の前にCE機能の一切の操作を許可しない。 操作者がCE認証インタフェース、入力するパスワードを用いてCE本人であることを認証する。

	認証不成功時には、5秒間アクセスを禁止する。
パスワードの変更	<p>管理者のパスワード、CEのパスワード及びユーザBOXパスワードを変更する。</p> <p>パスワード変更のインタフェースを提供し、新しいパスワードの入力を要求する。</p> <p>利用者により以下のパスワードの変更が可能である。</p> <p>CE : CEのパスワード、管理者のパスワード</p> <p>管理者 : ユーザBOXパスワード</p> <p>ユーザBOXを所有している一般利用者 : 自分自身のユーザBOXのユーザBOXパスワード</p> <p>パスワードが仕様に従っている場合変更し、仕様に従っていない場合変更を拒否する。</p>

(2) アクセス制御

機能名称	セキュリティ機能
一般利用者へのアクセスルールと制御	<p>ユーザBOXを所有している一般利用者を識別認証し、本人であることが認証できると、アクセスルールに従い一般利用者が操作可能な範囲を制限する。</p> <p>ユーザBOXを所有している一般利用者をユーザBOX識別子、ユーザBOXパスワードで識別認証を行い、ユーザBOX識別子が示すユーザBOX内のドキュメントデータに対して以下の操作を許可する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ドキュメントデータの読み出しと印刷 ドキュメントデータの読み出しと FAX 機器へ送信 ドキュメントデータの読み出しと FTP サーバへの送信 ドキュメントデータの読み出しと Mail サーバへの送信 ドキュメントデータの削除 <p>識別と認証不成功時には、5秒間アクセスを禁止する。</p>

(3) 残存データ保護

機能名称	セキュリティ機能の仕様
残存データ保護	TOEのドキュメントデータの削除が実施された後に必ず実行し、ドキュメントデータが格納されていたHDD上の領域を無意味な文字列で書き換える。

(4) 監査

機能名称	セキュリティ機能の仕様
監査情報の記録	<p>セキュリティ機能の動作に関する監査情報を記録する。 監査対象となるイベントを以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 監査機能の起動と終了 • 管理者、CE、ユーザ BOX を所有している一般利用者の識別と認証に関する成功不成功 • 管理者、ユーザ BOX を所有している一般利用者のパスワード登録時の成功不成功 • 管理者、CE、ユーザ BOX を所有している一般利用者のパスワード変更時の成功不成功 • ドキュメントデータ読み出しの成功 • ドキュメントデータ削除の成功
監査領域の管理	<p>監査情報を生成し保存するために監査格納領域を管理する。 監査情報の格納領域が枯渇した場合、記憶領域の先頭から監査情報を上書きする。</p>

(5) 管理支援

機能名称	セキュリティ機能の仕様
セキュリティ強化モードの設定	<p>管理者にのみTOEすべてのセキュリティ機能を有効にする機能(セキュリティ強化機能)を許可し実行する。</p>
管理支援機能(管理者)	<p>管理者にのみ以下の処理を許可し実行する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザ BOX 作成、ユーザ BOX 識別子の登録とユーザ BOX パスワードの設定 • ユーザ BOX 識別子の削除、ユーザ BOX 内の全ドキュメントデータの消去とユーザ BOX 削除)全ユーザ BOX 識別子の削除、全ユーザ BOX 内の全ドキュメントデータの消去及び全ユーザ BOX の削除は、HDD の初期化となる。 • 監査情報の問い合わせ ユーザBOXパスワードが仕様に従っている場合登録し、仕様に従っていない場合登録を拒否する。

1.5.5 脅威

本TOEは、表 1に示す脅威を想定し、これに対抗する機能を備える。

表 1 想定する脅威

識別子	脅威
不正なアクセス	一般利用者が、操作パネルから操作を行うことにより、他の一般利用者の所有するユーザBOX内のドキュメントデータを削除する又は漏洩する恐れがある。

1.5.6 組織のセキュリティ方針

TOEの利用に当たって要求される組織のセキュリティ方針を表 2に示す。

表 2 組織のセキュリティ方針

識別子	組織のセキュリティ方針
TOEの提供	TOEは販売会社のCEを経由して利用者に提供する。
利用済ドキュメントデータの処置	TOEは削除によって不要となったドキュメントデータを再使用出来ない状態にする。

1.5.7 構成条件

本TOEは、7145シリーズに搭載されるソフトウェア製品である。

本TOEは、7145シリーズ出荷時にセキュリティ機能付製品としてインストールして出荷するか、既に納入された7145シリーズにセキュリティ機能を追加する場合、出荷サイトで本TOEをCEがインストールする形態をとる。

1.5.8 操作環境の前提条件

本TOEを使用する環境において有する前提条件を表 3に示す。

これらの前提条件が満たされない場合、本TOEのセキュリティ機能が有効に動作することは保証されない。

表 3 TOE使用の前提条件

識別子	前提条件
TOEの設置条件	TOEは、内部ネットワークに接続されていて、製品関係者(*2)のみが利用可能な物理的に保護された区画に設置する。
筐体の保護	ドキュメントデータが格納されるHDDは、CEしか取り外せない機構を装備する。
内部ネットワークの設置条件	TOEは、ドキュメントデータの漏洩が発生しない内部ネットワークに接続する。
信頼できる管理者	管理者は、TOEを管理するための十分な管理スキルと信頼性を備えた人物であり、不正な行為を行わないものとする。
CEの条件	CEは、不正な行為を行わないものとする。
一般利用者の管理	管理者は、一般利用者にセキュリティ上、正しい操作を促すよう管理を行う。
セキュリティ機能の実行	管理者はセキュリティ機能を常に動作させる。

(*2)：一般利用者、管理者及びCEを示す。

1.5.9 製品添付ドキュメント

本TOEに添付されるドキュメントを以下に示す。

●国内向け

<CE向けマニュアル>

- ・7145本体開梱設置手順書 40LA97222 2003.11
本体の利用者先での設置手順が記述されている。
- ・7145 サービスハンドブック フィールドサービス編 Ver.3.0 2003.11
ハードウェアの調整方法などと共に、管理者の登録が記述されている。
- ・7145 ISW (In-System Writer) サービスハンドブック Ver.1.0 1999.12
7145シリーズ納品後、TOE及びOSを更新する場合に利用するISWの使用 방법이記述されている。

<管理者・一般利用者向けマニュアル>

- ・7145取扱説明書 コピー編 第4版 2003.7
コピー機能の利用方法が記述されている。
- ・7145取扱説明書 ネットワーク/スキャナ編 第3版 2003.11
ネットワークに接続する場合とスキャナ機能を利用する場合の7145本体の利用方法が記述されている。

- ・7145取扱説明書 ドキュメントボックス編 第1版 2003.7
ユーザBOXの利用方法などが記述されている。
- ・7145取扱説明書 セキュリティ編 第2版 2004.2
7145全体制御ソフトウェアの操作方法、利用できる機能が記述されている。

●海外向け

< CE向けマニュアル >

- ・7145 INSTALLATION MANUAL 40LE97222 2003.11
本体の利用者先での設置手順が記述されている。
- ・7145 SERVICE MANUAL Field Service Ver.3 Nov.2003
ハードウェアの調整方法などと共に、管理者の登録が記述されている。
- ・ISW Service Handbook Ver.1 Dev.1999
7145シリーズ納品後、TOE及びOSを更新する場合に利用するISWの使用 방법이記述されている。

< 管理者・一般利用者向けマニュアル >

- ・7145 Copier INSTRUCTION MANUAL Ver.6 2003.11
コピー機能の利用方法が記述されている。
- ・7145 Network Setup and Scanner Operations INSTRUCTION MANUAL V250 2003.11
ネットワークに接続する場合とスキャナ機能を利用する場合の7145本体の利用方法が記述されている。
- ・7145 Security INSTRUCTION MANUAL Ver.2 2004.3
7145全体制御ソフトウェアの操作方法、利用できる機能が記述されている。
- ・7145 Document Folder Operations INSTRUCTION MANUAL Ver.3 2003.11
ユーザBOXの利用方法などが記述されている。

2 評価機関による評価実施及び結果

2.1 評価方法

評価は、CCパート3の保証要件について、CEMパート2に規定された評価方法を用いて行われた。評価作業の詳細は、本評価報告書において報告されている。本評価報告書では、本TOEの概要説明、CEMパート2のワークユニットごとに評価した内容及び判断が記載されている。

2.2 評価実施概要

以下、本評価報告書による評価実施の履歴を示す。

評価は、平成15年9月に始まり、平成16年3月本評価報告書の完成をもって完了した。評価機関は、開発者から評価に要する評価用提供物件一式の提供を受け、一連の評価における証拠を調査した。また、平成15年9月、10月に開発・製造現場へ赴き、記録及びスタッフへのヒアリングにより、構成管理・配付と運用・ライフサイクルの各ワークユニットに関するプロセスの施行状況の調査を行った。また、開発者サイトで開発者のテスト環境を使用し、開発者が実施したテストのサンプリングチェック及び評価者テストを実施した。

各ワークユニットの評価作業中に発見された問題点は、すべて所見報告書として記録され、開発者に報告された。それらの問題点は、開発者による見直しが行われ、最終的に、すべての問題点が解決されている。

また、評価の過程で認証機関による問題点の指摘として認証レビューが評価機関へ渡された。これらは評価機関及び開発者による検討ののち、評価に反映された。

2.3 製品テスト

評価者が評価した開発者テスト及び評価者の実施した評価者テストの概要を以下に示す。

2.3.1 開発者テスト

1)開発者テスト環境

開発者が実施したテストシステムの構成を図 2-1に示す。

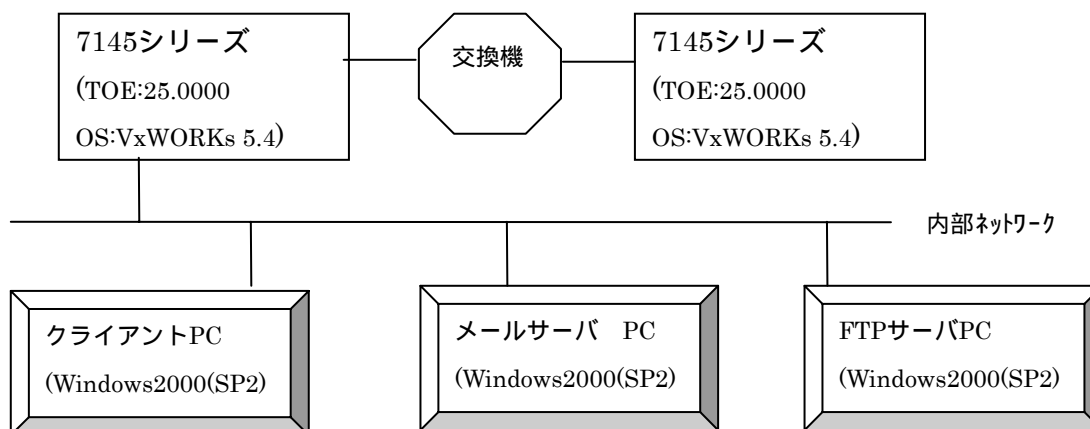


図 2-1 開発者テストシステム構成図

2)開発者テスト概説

開発者の実施したテストの概要は以下のとおり。

a.テスト構成

開発者が実施したテストの構成を図 2-1に示す。

テスト構成概要

- ・ 7145シリーズ上にTOE(25.000)を搭載
- ・ 7145同士を交換機にて接続(公衆電話回線網)
- ・ 内部ネットワーク(10baseT)に接続
- ・ 内部ネットワークを介して、PC(Windows2000(SP2))(クライアントPC,メールサーバ、FTPサーバ)と接続

開発者テストはSTにおいて識別されているTOE構成と同一のTOEテスト環境で実施されている。

b.テスト手法

開発者はテストを実施するに当たり、次のテスト方針/テスト手法を設定している。

TSFIの操作によりセキュリティ機能の動作を確認する。

テスト項目の設定にあたっては、TSFI、サブシステムインタフェースを最低一回は網羅するようテスト項目を設定する。

TSFI、サブシステムインタフェースを、直接7145シリーズの外部インタフェース経由の操作でテストできない場合は、間接的にそのインタフェースを刺激する手法でテストを行う。

テストを実行したときの実際のテスト結果と、期待される振る舞いを比較して、テストの目標が達成されたか否かを決定する。

テストの振る舞いの観測について、外部TSFIにて確認できるものは、直接確認し、テスト結果の振る舞いを観測できないものについては観測するためのデバックツールをTOEに搭載し、テスト結果を観測する。

c.実施テストの範囲

開発者テストは、以下のようにテスト量/カバレッジを設定している。

「7145機能仕様書」を基に全てのセキュリティ機能とTSFIを網羅するようテスト項目を設定。

全てのサブシステムをテストするよう、さらに、全てのサブシステムインタフェースを、最低一回は間接的であっても実行するよう、テスト項目を設定。

設定された58項のテストで、TSFインタフェース10のうち6のTSFIを直接テストし、残る4つのTSFインタフェースを間接的にテストする。

上記テスト範囲から全てのセキュリティ機能が含まれているため、評価者は開発者テスト数としては妥当と判断した。

d.結果

開発者によるテスト結果は、期待されるテスト結果と実際のテスト結果が一致していることを確認している。

評価者は、開発者テストの実施方法、実施項目の正当性を確認し、実施方法及び実施結果がテスト計画書に示されたものと一致することを確認した。

2.3.2 評価者テスト

1) 評価者テスト環境

評価者が実施したテストシステムの構成を図 2-2に示す。

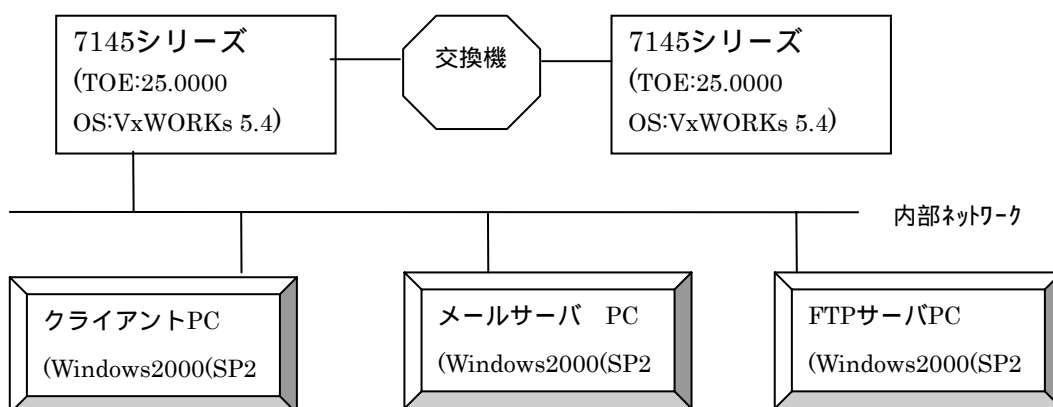


図 2-2 評価者テストシステム構成図

2) 評価者テスト概説

評価者の実施したテストの概要は以下のとおり。

a. テスト構成

評価者テストは、開発者テスト環境を借用して実施している。実施したテストの構成を図 2-2に示す。

テスト構成概要

- ・ 7145シリーズ上にTOE(25.000)を搭載
- ・ 7145同士を交換機にて接続(公衆電話回線網)
- ・ 内部ネットワーク(10baseT)に接続
- ・ 内部ネットワークを介して、PC(Windows2000(SP2))(クライアントPC,メールサーバ、FTPサーバ)と接続

評価者テストはSTにおいて識別されているTOE構成と同一のTOEテスト環境で実施されている。

b. テスト手法

評価者は以下のテスト手法により評価者テストを実施した。

TSEFIの操作によりセキュリティ機能の動作を確認する。

開発者テストの結果が正しいことを、開発者テストより抽出し確認する。

テストサブセットのテスト項目としては、開発者テストの項目を解析し、重要度の高い項目及び不足している項目を抽出する。

TSEFI、サブシステムインタフェースを、外部インタフェース経由の操作でテストできない場合は、間接的にそのインタフェースを刺激する手法でテストする。

テストを実行したときの実際のテスト結果と、期待される振る舞いを比較して、テストの目標が達成されたか否かを決定する。

テストの振る舞いの観測について、TSEFIにて確認できるものは、直接確認し、テスト結果の振る舞いを直接観測できないものについてはデバックツールをTOEに搭載し、テスト結果を観測する。

c. 実施テストの範囲

評価者テストは、以下のようにテスト量/カバレッジを設定している。

発者の実施したテストの実施結果の検証(14項目)

TOEの機能全般に対して検証を行う。抽出にあたっての基準は次のとおり

- ・ 10のサブシステムに対して少なくともひとつの項目を選択
- ・ 全ての操作者、インタフェースが関係する項目を少なくともひとつ選択
- ・ 運用に関係する一連の完結した作業が実施できるよう選択

発者の実施した機能テストで不足しているものの検証。(評価者追加分)(5項目)

- ・ FTPサーバ、メールサーバに関連した一連の動作
- ・ セキュリティ強化モードのon/offに関連した動作
- ・ 監査データの書き込み状態の確認

d.結果

実施したすべての評価者テストは正しく完了し、TOEのふるまいを確認することができた。評価者はすべてのテスト結果は期待されるふるまいと一致していることを確認した。

2.4 評価結果

本評価報告書をもって、評価者は本TOEがCEMパート2のワークユニットすべてを満たしていると判断した。

3 認証実施

認証は、評価の過程で評価機関より提出される各資料をもとに、以下の認証を実施した。

当該所見報告書でなされた指摘内容が妥当であること。

当該所見報告書でなされた指摘内容が正しく反映されていること。

提出された証拠資料をサンプリングし、その内容を検査し、関連するワークユニットが本評価報告書で示されたように評価されていること。

本評価報告書に示された評価者の評価判断の根拠が妥当であること。

本評価報告書に示された評価者の評価方法がCEMに適合していること。

これらの認証において発見された問題事項を、認証レビューとして作成し、評価機関に送付した。

認証機関は、本ST及び本評価報告書において、所見報告書及び認証レビューで指摘された問題点が解決されていることを確認した。

4 結論

提出された本評価報告書、当該所見報告書及び関連する評価証拠資料を検証した結果、認証機関は、本TOEがCCパート3([7][10][13][16]のいずれか)に規定されたEAL3に対する保証要件を満たしていることを確認した。

評価機関の実施した各評価者アクションエレメントについての検証結果を表 4にまとめる。

表 4 評価者アクションエレメント検証結果

評価者アクションエレメント	検証結果
セキュリティターゲット評価	適切な評価が実施された。
ASE_DES.1.1E	評価はワークユニットに沿って行われ、TOE識別、境界の記述が明瞭であることを確認している。また、当評価に至るまでになされた指摘(所見報告書)も適切と判断される。
ASE_DES.1.2E	評価はワークユニットに沿って行われ、TOE記述が理路整然と一貫性のあることを確認している。また、当評価に至るまでになされた指摘も適切と判断される。

ASE_DES.1.3E	評価はワークユニットに沿って行われ、TOE記述がST全体の内容と一貫していることを確認している。
ASE_ENV.1.1E	評価はワークユニットに沿って行われ、TOEのセキュリティ環境の記述が前提条件、脅威、組織のセキュリティ方針を漏れなく識別していることを確認している。また、当評価に至るまでになされた指摘も適切と判断される。
ASE_ENV.1.2E	評価はワークユニットに沿って行われ、TOEのセキュリティ環境の記述が理路整然とし一貫していることを確認している。
ASE_INT.1.1E	評価はワークユニットに沿って行われ、ST概説がST及びTOEの識別、概要及びCC適合が明確に述べられていることを確認している。また、当評価に至るまでになされた指摘も適切と判断される。
ASE_INT.1.2E	評価はワークユニットに沿って行われ、ST概説の記述が理路整然とし一貫していることを確認している。
ASE_INT.1.3E	評価はワークユニットに沿って行われ、ST概説の記述がST全体の内容と一貫していることを確認している。
ASE_OBJ.1.1E	評価はワークユニットに沿って行われ、セキュリティ対策方針の記述にTOE及び環境のセキュリティ対策方針が明記され、それらが脅威、組織のセキュリティ、前提条件へ遡れ、その対策方針の正当性をセキュリティ対策方針根拠が示していることを確認している。また、当評価に至るまでなされた指摘も適切と判断される。
ASE_OBJ.1.2E	評価はワークユニットに沿って行われ、セキュリティ対策方針の記述が理路整然とし、完結しており、かつ一貫していることを確認している。また、当評価に至るまでなされた指摘も適切と判断される。
ASE_PPC.1.1E	評価はワークユニットに沿って行われ、PP主張が行われていないため非適用であることを確認している。
ASE_PPC.1.2E	評価はワークユニットに沿って行われ、PP主張が行われていないため非適用であることを確認している。

ASE_REQ.1.1E	評価はワークユニットに沿って行われ、TOE及びIT環境の要件の記述、操作がCCに準拠していること、要件の依存性、機能強度が適切であること、各要件がそれぞれの対策方針に遡れ、それらを満たす根拠が示されていること、要件のセットが内部的に一貫し、相互サポート可能な構造となっていることを根拠が示していることを確認している。また、当評価に至るまでなされた指摘も適切と判断される。
ASE_REQ.1.2E	評価はワークユニットに沿って行われ、ITセキュリティ要件の記述が理路整然とし、完結しており、かつ一貫していることを確認している。
ASE_SRE.1.1E	評価はワークユニットに沿って行われ、CCを参照せずに明示された要件はないため非適用であることを確認している。
ASE_SRE.1.2E	評価はワークユニットに沿って行われ、CCを参照せずに明示された要件はないため非適用であることを確認している。
ASE_TSS.1.1E	評価はワークユニットに沿って行われ、TOE要約仕様の記述が適切なセキュリティ機能及び保証手段を示していること、それらが機能要件や保証要件を満たす根拠が示されていること、ITセキュリティ機能に対する機能強度主張が機能要件に対する機能強度と一貫していることを確認している。また、当評価に至るまでなされた指摘も適切と判断される。
ASE_TSS.1.2E	評価はワークユニットに沿って行われ、TOE要約仕様の記述が完結しており、理路整然とし、かつ一貫していることを確認している。
構成管理	適切な評価が実施された
ACM_CAP.3.1E	評価はワークユニットに沿って行われ、TOEとその構成要素が一意に識別され、TOEになされる変更の管理・追跡が可能な手続きが妥当であり正しく運用されていることを確認している。また、当評価に至るまでなされた指摘も適切と判断される。
ACM_SCP.1.1E	評価はワークユニットに沿って行われ、構成要素リストがCCによって要求される一連の要素を含んでいることを確認している。

配付と運用	適切な評価が実施された
ADO_DEL.1.1E	評価はワークユニットに沿って行われ、TOE配付についてセキュリティ維持のために必要な手続きが規定され、実施されていることを確認している。また、当評価に至るまでなされた指摘も適切と判断される。
ADO_DEL.1.2D	評価はワークユニットに沿って行われ、実際に配付手続きが使用されていることを、実地検査により確認している。
ADO_IGS.1.1E	評価はワークユニットに沿って行われ、TOEがセキュアにセットアップされるための手順が提供されていることを確認している。
ADO_IGS.1.2E	評価はワークユニットに沿って行われ、ADO_IGS.1.1Eにて提供されたセットアップの手順がセキュアであることを確認している。
開発	適切な評価が実施された
ADV_FSP.1.1E	評価はワークユニットに沿って行われ、明確かつ矛盾なく機能仕様が記述され、そこにすべての外部セキュリティ機能インタフェースとそのふるまいが適切に記述されていること、機能仕様にTSFが完全に表現されていること、機能仕様がTSFを完全に表現している論拠を含んでいることを確認している。また、当評価に至るまでなされた指摘も適切と判断される。
ADV_FSP.1.2E	評価はワークユニットに沿って行われ、機能仕様がTOEセキュリティ機能要件の完全かつ正確な具体化であることを確認している。また、当評価に至るまでなされた指摘も適切と判断される。
ADV_HLD.2.1E	評価はワークユニットに沿って行われ、上位レベル設計が明確で矛盾のないこと、サブシステムを規定しそのセキュリティ機能を記述していること、TSF実現に必要なIT環境としてのハードウェア、ソフトウェア、ファームウェアを説明していること、TSFサブシステムの外部とその他のインタフェースが識別され、それらの詳細を記述していることを確認している。また、当評価に至るまでなされた指摘も適切と判断される。

ADV_HLD.2.2E	評価はワークユニットに沿って行われ、上位レベル設計がTOEセキュリティ機能要件の正確かつ完全な具体化であることを確認している。また、当評価に至るまでなされた指摘も適切と判断される。
ADV_RCR.1.1E	評価はワークユニットに沿って行われ、機能仕様がTOEセキュリティ機能の正しく完全な表現であり、上位レベル設計が機能仕様の正しく完全な表現であり、下位レベル設計が上位レベル設計の正しく完全な表現であることを、それらの対応分析により確認している。また、当評価に至るまでなされた指摘も適切と判断される。
ガイダンス文書	適切な評価が実施された
AGD_ADM.1.1E	評価はワークユニットに沿って行われ、管理者ガイダンスがTOEのセキュアな運用に必要な管理機能、権限、利用条件とセキュアな状態維持のための適切なセキュリティパラメタ、管理が必要となる事象と対処法を記述してあること、他の証拠資料と一貫しておりIT環境に対するセキュリティ要件を記述してあることを確認している。また、当評価に至るまでなされた指摘も適切と判断される。
AGD_USR.1.1E	評価はワークユニットに沿って行われ、利用者ガイダンスがTOEの管理者でない利用者が利用可能なセキュリティ機能やユーザインタフェース、セキュリティ機能の使用法、対応すべき機能や特権に関する警告、TOEのセキュアな操作に必要なすべての利用者責任が記述してあり、他の証拠資料と一貫しておりIT環境に対するセキュリティ要件を記述してあることを確認している。また、当評価に至るまでなされた指摘も適切と判断される。
ライフサイクルサポート	適切な評価が実施された
ALC_DVS.1.1E	評価はワークユニットに沿って行われ、開発セキュリティ証拠資料がTOE開発環境のセキュア維持のための手段を記述しており、それが十分であること、その手段を実施した記録が生成されることを確認している。また、当評価に至るまでなされた指摘も適切と判断される。

ALC_DVS.1.2E	評価はワークユニットに沿って行われ、ALC_DVS.1.1Eで確認したセキュリティ手段が実施されていることを確認している。また、本評価時に行われたサイト訪問での調査方法も適切と判断される。
テスト	適切な評価が実施された
ATE_COV.2.1E	評価はワークユニットに沿って行われ、テスト証拠資料に識別されているテストが機能仕様に正確かつ完全に対応していること、テスト計画に示されたテスト手法がセキュリティ機能の検証に適切であること、テスト手順に示されるテスト条件、手順、期待される結果が各セキュリティ機能を適切にテストするものであることを確認している。また、当評価に至るまでなされた指摘も適切と判断される。
ATE_DPT.1.1E	評価はワークユニットに沿って行われ、テスト証拠資料に識別されているテストが上位レベル設計に正確かつ完全に対応していること、テスト計画に示されたテスト手法がセキュリティ機能の検証に適切であること、テスト手順に示されるテスト条件、手順、期待される結果が各セキュリティ機能を適切にテストするものであることを確認している。
ATE_FUN.1.1E	評価はワークユニットに沿って行われ、テスト証拠資料がテスト計画、手順、期待される結果及び実際の結果を含み、テスト計画が目的を記述しセキュリティ機能を識別し、ST及びテスト手順記述と一貫していること、テスト手順記述がテストするセキュリティ機能のふるまいを識別しており再現可能な記述であること、テスト証拠資料が期待されるテスト結果が含まれておりそれらが実施結果と一致していることを確認し、開発者のテスト成果を報告している。また、当評価に至るまでなされた指摘も適切と判断される。
ATE_IND.2.1E	評価はワークユニットに沿って行われ、テスト構成がSTの記述と一貫し、TOEが正しく設定され、開発者テストと同等の資源が提供されていることを確認している。

ATE_IND.2.2E	評価はワークユニットに沿って行われ、テストサブセットとその証拠資料を作成し実施している。実施したテスト内容を記述し、結果が期待されるべき結果と一貫していることを確認している。また、本評価時に行われたテスト実施方法も適切と判断される。また、当評価に至るまでなされた指摘も適切と判断される。
ATE_IND.2.3E	評価はワークユニットに沿って行われ、サンプリングテストを実施し、結果が期待されるべき結果と一貫していることを確認している。また、本評価のサンプリング方針及びテスト実施方法も適切と判断される。
脆弱性評定	適切な評価が実施された
AVA_MSU.1.1E	評価はワークユニットに沿って行われ、管理者ガイダンス及びインストールガイドがTOEのセキュアな運用に必要な情報を矛盾なく完全に記述していること、使用環境の前提事項、TOE以外のセキュリティ事項の要件がすべて明記されていること、ガイダンスの完全性を保証する手段を開発者が講じていることを確認している。また、当評価に至るまでなされた指摘も適切と判断される。
AVA_MSU.1.2E	評価はワークユニットに沿って行われ、提供されたガイダンスの管理者と利用者手続き、あるいはその他の手続き情報のみで、TOEを構成でき、TOEのセキュアな運用に関わる設定が行えることを確認している。
AVA_MSU.1.3E	評価はワークユニットに沿って行われ、提供されたガイダンスが、TOEが非セキュアな状態に陥ったことを検出する手段及び対処方法が記述されていることを確認している。また、当評価に至るまでなされた指摘も適切と判断される。
AVA_SOF.1.1E	評価はワークユニットに沿って行われ、STでSOF主張がなされているセキュリティメカニズムに対して、正当なSOF分析が行われ、SOF主張が満たされていることを確認している。
AVA_SOF.1.2E	評価はワークユニットに沿って行われ、すべての確率的または順列的メカニズムがSOF主張を持ち、そのSOF主張が正しいことを確認している。

AVA_VLA.1.1E	評価はワークユニットに沿って行われ、脆弱性分析が脆弱性に関する情報を考慮していること、識別された脆弱性について悪用されない根拠とともに記述していること、脆弱性分析がSTやガイダンスの記述と一貫していることを確認している。また、当評価に至るまでなされた指摘も適切と判断される。
AVA_VLA.1.2E	評価はワークユニットに沿って行われ、侵入テストとそれを再現可能な詳細を持つ侵入テスト証拠資料を作成しテストを実施している。実施したテスト結果とテスト概要について報告がなされている。

注意事項

内部ネットワークを介してTOEがクライアントPCやMailサーバとやりとりする際のデータを保護する機能はTOEに含まれていない。本TOE利用時のネットワーク構成に関して、セキュリティ上の注意を利用者に伝えることを勧める。

5 用語

本報告書で使用された略語を以下に示す。

CC	Common Criteria for Information Technology Security Evaluation
CEM	Common Methodology for Information Technology Security Evaluation
CM	Configuration Management
EAL	Evaluation Assurance Level
PP	Protection Profile
SOF	Strength of Function
ST	Security Target
TOE	Target of Evaluation
TSF	TOE Security Functions
TSP	TOE Security Policy
TSM	TSF Interface

本報告書で使用された用語を以下に示す。

ユーザBOX	ドキュメントデータを格納するディレクトリ
ドキュメントデータ	文字や図形などの情報を電子化したデータ
操作パネル	7145シリーズの筐体に付属するタッチパネル式ディスプレイ及び操作ボタンの名称
紙文書	文字や図形などの情報を持つ紙媒体の文書
内部ネットワーク	7145シリーズを導入する組織のLAN
外部ネットワーク	内部ネットワーク以外のネットワーク(例えばインターネットなど)
一般利用者	7145シリーズを導入する組織に在籍し、7145シリーズのコ

ピー/プリンタ/FAXなどに関する利用者機能を利用する。

管理者	7145シリーズを導入する組織に在籍し、7145シリーズの運用管理を行う。7145シリーズが提供する運用管理の機能を利用する。
CE	7145シリーズの保守を委託されている企業に在籍する。CEは7145シリーズが提供する保守管理の機能を利用し、7145シリーズの保守作業を行う。責任者又は管理者と7145シリーズの保守契約を締結している。
責任者	責任者は、7145シリーズを導入する組織に在籍し、管理者を選任する。
製品関係者	一般利用者、管理者及びCEを示す。

6 参照

- [1] Multi functional printer(digital copier)7145 Series セキュリティターゲット 第13版 コニカミノルタビジネステクノロジー株式会社
- [2] ITセキュリティ認証申請等の手引き 平成15年 独立行政法人製品評価技術基盤機構 適合性評価センター
- [3] ITセキュリティ評価機関に対する要求事項 平成14年4月 独立行政法人製品評価技術基盤機構 適合性評価センター 適合 - 部門 - IT機関要求 - 02
- [4] ITセキュリティ認証申請者・登録者に対する要求事項 平成14年4月 独立行政法人製品評価技術基盤機構 適合性評価センター 適合 - 部門 - IT申請要求 - 02
- [5] Common Criteria for Information Technology Security Evaluation Part1: Introduction and general model Version 2.1 August 1999 CCIMB-99-031
- [6] Common Criteria for Information Technology Security Evaluation Part2: Security functional requirements Version 2.1 August 1999 CCIMB-99-032
- [7] Common Criteria for Information Technology Security Evaluation Part3: Security assurance requirements Version 2.1 August 1999 CCIMB-99-033
- [8] 情報技術セキュリティ評価のためのコモンクライテリア パート1: 概説と一般モデル バージョン2.1 1999年8月 CCIMB-99-031
- [9] 情報技術セキュリティ評価のためのコモンクライテリア パート2: セキュリティ機能要件 バージョン2.1 1999年8月 CCIMB-99-032
- [10] 情報技術セキュリティ評価のためのコモンクライテリア パート3: セキュリティ保証要件 バージョン2.1 1999年8月 CCIMB-99-033
- [11] ISO/IEC 15408-1 Information technology — Security techniques — Evaluation criteria for IT security — Part 1: Introduction and general model ISO/IEC15408-1: 1999(E)
- [12] ISO/IEC 15408-2 Information technology — Security techniques — Evaluation criteria for IT security — Part 2: Security functional requirements ISO/IEC15408-2: 1999(E)
- [13] ISO/IEC 15408-3 Information technology — Security techniques — Evaluation criteria for IT security — Part 3: Security assurance requirements ISO/IEC15408-3: 1999(E)
- [14] JIS X 5070-1: 2000 セキュリティ技術 - 情報技術セキュリティの評価基準 - 第1部: 総則及び一般モデル
- [15] JIS X 5070-2: 2000 セキュリティ技術 - 情報技術セキュリティの評価基準 - 第2部: セキュリティ機能要件
- [16] JIS X 5070-3: 2000 セキュリティ技術 - 情報技術セキュリティの評価基準 - 第3部: セキュリティ保証要件
- [17] Common Methodology for Information Technology Security Evaluation CEM-99/045 Part2: Evaluation Methodology Version 1.0 August 1999

- [18] 情報技術セキュリティ評価のための共通方法論 CEM-99/045 パート2: 評価方法論
バージョン1.0 1999年8月
- [19] JIS TR X 0049: 2001 情報技術セキュリティ評価のための共通方法
- [20] CCIMB Interpretations-0210
- [21] 補足-0210
- [22] 7145全体制御ソフトウェア 評価報告書 第9版
社団法人 電子情報技術産業協会 ITセキュリティセンター